

埼玉親善大使レポート

Mayo de 2016

長山優子

道ががたがた

メキシコシティでまず最初に感じることは、道ががたがたということです。埼玉は関東平野のど真ん中にあるので、東京寄りの地域はあまり坂などの起伏がありません。

ですが、メキシコは違います。メキシコシティは標高 2500 メートルほどの盆地です。しかも、湖を埋め立てて造った街なので、町のあちらこちらで地盤沈下が起きています。さらに車道にはわざと作った tope（盛り土）もあります。他の観光地でも山がちの所が多く、階段があったり、坂があったり。



地盤沈下の例。右側の教会が前の方に傾いている

今回はそんな道ががたがたのせいで、私に起こった数々のハプニングについて書きたいと思います。

穴

それは、冬の夜の 8 時位の事でした。友人達と共に道を歩いていた時のこと。その中の一人の家に向かっておりました。彼の家はメトロの Universidad 駅からバスでおおよそ 20 分ほど。歩くと 1 時間強の場所にあります。その日、タクシーを拾おうとしていたのですが、なかなか捕まらず、私はタクシー手配のアプリを使いながら、友人たちの後ろを歩いておりました。その時は電波がなかなか捕まらず、ちらちら画面を確認しては、前を見て歩いておりました（この時に注意力散漫になっていたのが、私の至らないところです。）

その道は街灯もない真っ暗な道。人通りも少なく、変質者が出てきたらどうしようと内心びくびくしておりました。すると、先を行く友人達が私の方を向いて何か叫びました。私は何も聞こえず、何があるのだろうと周りを見渡し、左に一軒の小さい小屋があるのに気づきました。

—ああ、小屋に誰かいたのかな。

と思った矢先、視界が急転。気づいたら私は穴に落ちていました。そう、彼らは「穴に気を付けろ」と言っていたのです。

その穴、ただの穴ではありません。深さがおそらく 1.5 メートルほどある下水に繋がる穴でした。しかも歩道の真ん中に。

私は肘が地面にぶつかったので止まりましたが、今思い出しても落ちた時に足が完全についていたか定かではありません。1.5 メートルとは書きましたが、もしかしたらもう少し深かったかもしれません（私の身長は 170 センチです）。自分で友人たちに引き上げてもらった記憶しかないのです。

落ちた時に足を思いきり打ったらしく、痛みで立てない状態。友人の家までタクシーで行き、その後しばらく休ませていただきました。

その後、地面を注視して歩いていると、あるわあるわ、下水の穴。私の大家さんの親戚の方もそのような穴に落ちて腕を骨折したとか。メキシコでは歩道でも穴が開いている場合が多いのです。

「落ちると思ったから、注意したのに」と友人に言われ、穴があったら入りたいと恥ずかしさでいっぱいでした。



落ちた穴

なぜ穴が多いのか

これらの穴も元々は金属製のふたがあり、きちんと整備されたものでした。しかしながら、金属は「お金になり」ます。つまり、夜間等人通りが少ない時、少ない時間帯にふたを盗んで換金する人がいるのです。貧富の差が激しいメキシコ。そういった犯罪がまかり通っているらしく、人通りの少ない道には穴が開いたままのマンホールがいくつか見受けられます。大家さんやメキシコ人の友人曰く、メキシコシティ側は穴をふさぐことを重要視していません。再度ふたをしたところで、またふたを取られてしまうのは目に見えることなのでしてないといった考えもあるのかもしれません。

メキシコシティに住むときは、くれぐれも「穴」にはお気をつけいただきたいと思います。